

平成 26 年度浜松創造都市推進会議 第3回音楽専門部会 議事録

日 時：平成 26 年 11 月 13 日（木）午後 6 時 00 分～午後 8 時 00 分

場 所：浜松市役所本館 8 階 802 会議室

出席者：梅田英春委員、峯郁郎委員、中村勝也委員、金子和裕委員、相原靖委員
岡部比呂男委員、小林昌史委員、土屋史人委員、初村則子委員、高橋由美子委員、伊熊元則委員、後藤康志委員、嶋和彦委員
（オブザーバー）
影山伸枝創造都市推進担当課長、森田孔二文化政策課長

報 道：なし

傍聴者：1 人

事務局：鈴木三男課長補佐、竹本澄生グループ長、小川由利子（文化政策課）
影山元紀グループ長、宮木広由、辻昌孝、外山裕太、藤谷佳澄
（以上、企画課創造都市推進グループ）

1 開会（事務局 鈴木）

これより 進行は梅田部会長

2 挨拶（梅田部会長）

ユネスコ創造都市関係の発表が今月にある。いい報告が受けられればいい。

3 報告事項

（1）ユネスコ創造都市ネットワーク年次総会について

資料 1 説明（事務局 宮木）

ユネスコ発表が現地時間 12 月 1 日の深夜発表だと、浜松では 2 日の朝になるかもしれない。

イベントのチラシなどにユネスコ加盟記念の「冠」をつけて、アピールをお願いしたい。ロゴマークについては加盟後にユネスコから指示がある。

（高橋委員）

ユネスコ加盟記念冠事業について何かルールはあるか？

（事務局 宮木）

地域を限定しないで、参加者が浜松市全域以上のものや市外へ発信できるものを対象としたい。

（中村委員）

期間はいつまでになるか？

（事務局 宮木）

1 年程度である。

(梅田部会長)

サブネットワークのボローニャのコーディネートシティの年限は何年間か？

(事務局 宮木)

2年である。

(高橋委員)

ユネスコ加盟の結果について、市役所側の広報の方法は決まっているか？

(事務局 宮木)

市長記者発表を考えている。テレビやラジオでのPRや、市役所やアクトシティでの懸垂幕、パンフレット印刷などを考えている。

4 議事

(1) 音楽を通じた文化的多様性に関する国際会議について

資料2 説明 (事務局 鈴木)

(梅田部会長)

枠組みを基にご意見をお願いします。

(岡部委員)

タイトルの「音楽を通じた文化的多様性に関する国際会議について」と、3日間の企画内容とはリンクしているのか？

(事務局 鈴木)

基調講演の講師で誰を選ぶか、パネルディスカッションをどういったテーマにするか、誰を壇上にあげるのかなどを検討する。加盟都市にもテーマに沿った実践発表してもらうなどによりタイトルとリンクした内容としたい。

(梅田部会長)

音楽分野の創造都市はヨーロッパから南米まである。できるだけ多くの加盟都市に浜松に来ていただき、地域の独自性とネットワークを活用した文化創造について議論ができればと考えている。

(高橋委員)

浜松国際ピアノコンクールは世界でも認知され発展してきてはいるが、国内での注目度には課題が残る。国際会議と連携して行うのであれば、効果的な広報戦略を行い、市民への認知度を高めるとともに、マスコミで大きくとりあげられるような根回しが必要ではないか。

(梅田部会長)

ユネスコ創造都市の加盟都市のネットワークを利用して情報を外に発信できるようになるので、加盟都市となれば広報戦略に可能性が広がる。

(梅田部会長)

産業観光とあるが、事務局としてはどのようなイメージを持っているか。

(事務局 鈴木)

産業観光については、音楽・楽器産業にこだわらずに、製造業など幅の広い形で見たいと考える。

(梅田部会長)

「音楽を通じた文化的多様性に関する国際会議について」の枠組みはこれでいいか、詳細は今後決めていきたい。

=了承=

(2) 世界音楽の祭典 in 浜松について

資料3 説明 (事務局 鈴木説明)

ボローニャ (世界青少年音楽祭)、グラスゴー (ケルト音楽)、^{なんとし}南砺市のスキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド (アフリカ音楽) などの映像をインターネットで紹介

(梅田部会長)

世界音楽の祭典について議論しやすいように枠組みをつくってある。今回内容を決定するのではなく、議論の題材になるように色々な意見を出していただきたい。

(金子委員)

このイベントはこれからどうなるのか？ 1回で終わるのか？ 継続するのか？

(事務局 鈴木)

一過性の事業ではないが財政的に毎年実施するのは難しい。何年ごとに実施するか、先のことは決まっていない。ユネスコ創造都市の音楽分野の加盟都市間で持ち回りの事業とすることもできるが、加盟都市との連携事業については相談し議論する必要がある。

(小林委員)

南砺市のスキヤキ・ミーツ・ザ・ワールドは毎年実施しているのか？

(梅田部会長)

毎年実施している。小さな街でありそんなに多くの人が集まるわけではないが、地域興しで実施し始め、レベルは高い。ワールドミュージックはここでしかやっていない。富山県の利賀でも演劇を実施しており、多くの若者が集まるイベントとなっている。

(小林委員)

引佐では「人形劇フェスティバル」を実施している。他の事業と連携して開催するなどが効果的であると思う。

(相原委員) (金子委員)

「音楽を通じた文化的多様性に関する国際会議」「世界音楽の祭典」のそれぞれのコンセプト、目的は何か？

(事務局 鈴木)

音楽祭は準備期間が必要になる。国際会議では議論すると同時に音楽祭の招致活動もしないといけない。国際会議は仕掛けであり、加盟都市にも集まって頂き議論することも音楽祭プロジェクトの一つである。実行委員会も早期に立ち上げていきたい。

2017年以降については、今後、アジア・太平洋吹奏楽指導者協会浜松大会（APBDA）や、東京オリンピックもあるので、アジアにおける音楽都市の創造拠点として存在感を示すことができるよう事業を企画していきたい。

(金子委員)

もっと市民参加型のイベントにするのが良いのではないかと？

(事務局 鈴木)

「世界音楽の祭典 in 浜松」を市民参加型の企画にしていきたい。

(梅田部会長)

継続性、コンセプト、市民参加型、といったポイントが大切であると思いますが、他にも意見があるか？

(土屋委員)

浜松ならではの何か？ 浜松の伝統芸能部分とは具体的に決まっているのか？
また、「世界音楽の祭典」とした場合、市民が興味を持つ内容となるのか？「やらまいかミュージックフェスティバル」「ピアノコンクール」「ジャズウィーク」を拡大していくほうがいいのでは？

(金子委員)

浜松の音楽文化とは何かを考えたほうがいい。

(岡部委員)

若い人の人材育成にお金を使うべき。浜松がすごいだろと言っても意味がない。出発点なので試行錯誤的な部分もあるが、若い人たちの可能性を広げるような企画が望ましい。

(高橋委員)

浜松には素晴らしい「楽器博物館」がある。また浜松文化振興財団、アクト音楽院は高いレベルの事業を20年間、すでに実施してきている。これらをもっと徹底して活用し、発展させていくべきではないか。

また浜松では合唱も盛んであるが、人の声、歌は音楽の基本であり大切。

子ども音楽鑑賞教室は小学校5年生を対象として高い評価を受けているが、3歳から5

歳くらいの子どもに本物の歌や音を聴かせるような制度をつくっても良いのではないか。アクト音楽院の主催者育成事業で企業メセナの講演をお願いしたが、話をきいて浜松の音楽院事業では先取りして既に20年前から実施してきていることだと思った。これまでに蓄積してきたノウハウを活用して効果的な事業の展開を推進すべきである。

(梅田部会長)

既存事業との連携、これまでのノウハウの蓄積を活かすことが大切である。

(初村委員)

「世界音楽の祭典」は何月にやるのか？

(事務局 鈴木)

まだ決まっていない。

(初村委員)

参考情報であるが、2016年8月の第1週の土日は、浜松で全日本合唱連盟主催の合唱フェスティバルがあり、ゲストで外国の方も来る。

(梅田部会長)

屋外で実施することを考えると寒いときは無理。あまり時期が早くても準備が出来ない。おのずと時期が限られる。

(初村委員)

「ラ・フォル・ジュルネ」を観たことがあるが、5月連休明けに実施しており、子どもは無料で参加できる。世界音楽の祭典では、ジャンルを広くすると大変ではないか。焦点を絞るように、今年はジャズ系で行くとか、段階的に開催したらどうか。

(梅田部会長)

ユネスコにアピールしていくため、今までと違う音楽における文化的多様性のイベントを市としても提案する必要がある。既存事業を利用してもよいが、新しい要素も必要である。

(初村委員)

ソーシャル・サウンドという考え方は医療でも使われ始めている。都市としての音づくりもテーマとして考えられる。

(金子委員)

音楽文化創造都市とは何か？ 足元の音楽を育てていかなければならない。

(梅田部会長)

浜松市は中山間地域に様々な文化と芸能が存在しており、海外の方は興味があるのではないか。街中だけでなく市全域を考えないといけない。

(初村委員)

小中学校の指導のために佐久間に行くことがある。騒音がまったくない環境であり、子どもたちにも音に対する純粋な感性がある。佐久間の皆さんは元ウィーンフィルハーモニー奏者のヤイトラー氏の演奏会を楽しみにしているが、そこには老若男女が楽しみ温かい気持ちになるという音楽の原点がある。中山間地の子ども達にも音楽を提供することが大切。そうすれば、全市をあげた取り組みとなる。

(後藤委員)

文化振興財団ではいろいろな事業を行っているので、それらを利用してもいい。「浜松の音楽とはこれ」とは決められないが、多様性があるという言い方もできる。浜松では色々な音楽をみんな楽しんでいるということでも良いのではないか。核を決めなくてもいいのではないか。浜松市は音楽が多様化されているのが特徴だといえればいい。屋外で実施するなどお祭りのような企画がいい。

(金子委員)

「浜松まつりラップコンテスト」をやってもいい。ラップにすごい特徴がある。子どもたちが吹けるのがすごい。

(梅田部会長)

浜松の音楽はアマチュアからプロまで多様性があり雑多である。沖縄ではチャンプル文化というものがある。

(嶋委員)

日本文化を忘れてはいけない。浜松まつりには西洋のラップとおはやしがあり、カオス（混沌）という表現がピッタリではないか。その他、伝統芸能、遠州大念仏もあるので絞り切るのは難しい。むしろ総花的でも良いのではないか。（カラオケも文化である。子どもがキーワードにもなる。）

外からタレントを呼んでもダメ。ハンディキャップを持った人も参加する。会場もホールだけでなく、屋外でやればいい。楽器博物館も海外の評価が高く、楽器博物館の活動が時代の先取りしていることを我々は気がついていない。自分たちが気付いていない良さを活用すべきである。

(梅田部会長)

浜松の特徴としてカオスというのがある。文化的多様性について背伸びをしなくても、地域にある音楽資源を整理し情報発信していくことで可能となるのではないか。ただし、ユネスコ加盟都市との交流も大切なので招致する必要があるが、浜松まつりも含めて、吹奏楽、合唱、オーケストラなどを発信することが、浜松のいいところを発信することになるのではないか。

(峯委員)

既に浜松市内では多様な音楽活動が行われているものの、市民が互いに知らないという側面もあり、まず、情報を相互にリンクして整理することが大切ではないか。そうし

た地域の音楽活動を市民が情報共有するなど市民レベルでもう少し知られるようになることが大切。

また一過性のイベントではない、ということが大切であるので、その指標として若者や子どもたちに何が残せるかを考えることが有効ではないか。若者と子どもを巻き込めれば大人もついてくる。

(伊熊委員)

浜松には既に多くの素材がある。後はそれをどう仕立てていくのか。国際会議でも音楽の祭典でもすべて新しいことをするというだけでなくとも良いと思われる。

(相原委員)

議論を聞いていると三つの柱があると思う。世界の音楽を発信していくこと。浜松をPRすること。市民参加型にすること、である。

(小林委員)

「ワークショップ」に力をいれてほしい。水窪などの北遠では、まちなかの事業に参加することが出来ないので中山間地にも展開した方が良い。

(岡部委員)

浜松交響楽団でも小学校を訪問して演奏するオーケストラ教室を行っているが、子どもたちの人数が減っている。このため、もう少し地域社会に広くワークショップを行うことを考えている。

養護学校や地域コミュニティーにおける参加型の事業を2016年にできないか模索している。

(小林委員)

浜松フィルハーモニーはプロの演奏者なので、ギャラを支払わなければならないという条件があるものの、普段コンサートを聴くことができない地域に行くなど、地域貢献をもっと積極的に進めていきたいと模索しているところである。

(梅田部会長)

音楽祭とは別に、ユネスコ創造都市の活動として音楽の社会貢献活動を充実していけたら良いと考える。

(初村委員)

文化振興財団でもフラワーパークで演奏会を行っている。屋外で実施すると音が広がる。音楽の祭典としてはアウトリーチ活動、野外公演は必要ではないか。

(高橋委員)

市役所や元城小学校の運動場を開放して実施しても良いのではないか。道路を封鎖した利用、浜松城公園一帯を利用してやってもいい。

(金子委員)

既成概念に捉われず実施するのが良い。浜松城コンサートも面白いのではないか。

(梅田部会長)

有益な議論が多くなされ成果があった。本日の議論はここで終わりとさせていただきたい。

5 その他

事務連絡（事務局 鈴木）

今回は平成 27 年 1 月 27 日火曜日、時間は午後 6 時、場所は 5 階庁議室を予定している。

ユネスコ創造都市の発表でいい報告が受けられればいい。

イベント案内（バンバンケンバン）、楽器博物館、「楽学」のイベント案内。

6 閉会